

平川市長 長尾忠行

忠恕



昨年を振り返りますと、幾度とない台風の接近に加え、春先からりんご園地では黒星病が発生するなど、農業が基幹産業である本市にとりましては不安の多い年でありました。

一方で、陸上競技やソフトボールなど、さまざまな競技において全国の舞台で大いに活躍した子どもたちの姿に元気と勇気をもらい、さらには、東京ヤクルトスワローズ育成一位指名を受けた内山^{たいし}太嗣選手のニュースは、本市の子どもたちに夢と希望を与えてくれました。

市政におきましては、企業版ふるさと納税と補助金を活用し、世界一の扇ねぶたをリニューアルしたほか、移住対策事業や市の魅力発信事業を積極的に行っております。

福祉施策では、減塩講座の開催、塩分測定器の配布による減塩への意識啓発をはじめとした、健康づくりの取組みを推進するとともに、昨年からは、子育て世代包括支援センターと未就学児および通級指導教室を開設し、妊娠初期から子育て期にわたる包括

明けましておめでとうございます。

皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より市政にお寄せいただいておりますご支援とご協力に対しまして、厚く御礼を申し上げます。

平成31年 平川市長 長尾忠行



的・継続的な支援を実施しております。また、義務教育修了までの完全医療費無料化を実現するなど、子育て環境の更なる充実に努めてまいりました。

施設整備では、防災拠点施設を備えた新体育館の建設、指定避難所である集会施設の耐震化を進め、安全・安心なまちづくりに引き続き取り組んでおります。

人口減少、少子高齢化という中であっても、平川市をさらに前進させるため、「第2次平川市長期総合プラン」、「まち・ひと・しごと創生平川市総合戦略」に掲げる施策の一つひとつ着実に実行し、市の将来像「あふれる笑顔 くらし輝く 平川市」の実現を目指しているところです。

そのような中、2019年度は現行の総合戦略の計画最終年度にあたり、現計画の総仕上げおよび政策の検証を行いながら、次期計画の策定に取り組む重要な年となります。人口減少を克服し、地方創生を成し遂げるためには、中長期的に施策を展開していかなければなりません。平川市の活力ある未来を創り上げるために、市民、企業、行政が一体となった「チーム平川」の力を結集しながら、引き続き、全力でまちづくりに取り組んでまいりますので、市民の皆様により一層のご支援とご協力をお願いいたします。

結びに、本年が皆様にとりまして、穏やかで希望に満ちた年となりますよう心からお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



平川市長 座右の銘

「忠恕（ちゅうじょ）」

自分の良心に忠実であることと、他人に対して思いやりの深いことを意味する。





市内の話題 ひらかわキャンドルナイト

12月23日、中央公園で「ひらかわキャンドルナイト」がh&fプラスにより開催されました。この日は、現在開催中の「ひらかわイルミネーションプロムナード」に加え、揺らめくキャンドルの暖かさを感じさせる灯りが幻想的な雰囲気を作りだしていました。また、出店による飲食物の販売や、様々な音楽のライブも催され、訪れた方々は、思い思いに一夜限りのイベントを楽しんでいました。



クリスマスおはなし会

12月8日、文化センターで毎年恒例の「クリスマスおはなし会」が開かれ、親子連れなど約110人がクリスマスや冬の物語を楽しみました。読書推進運動協議会「おはなしこっとな」が絵本や紙芝居の読み聞かせなどを行い、参加した子どもたちは物語の世界を存分に楽しんだほか、会の最後にはサンタクローズからプレゼントをもらい、少し早いクリスマスを満喫しました。



トップアスリートによる ジュニア水泳教室

12月15日、16日、碓ヶ関屋内温水プールゆうえい館で、シドニー五輪女子競泳100メートル背泳ぎで銀メダルを獲得した中村真衣さんによる水泳教室が開催されました。教室には小中高生ら約80人が参加し、トップアスリートからの指導を受けられる貴重な機会ということから、参加者は一様に真剣な面持ちで臨み、アスリートとして必要な心構えや、水泳の基礎について学んでいました。



ヤクルト育成1位指名 内山太嗣選手の市長表敬訪問

12月27日、プロ野球ドラフト会議で東京ヤクルトスワローズから育成1位指名を受けた内山太嗣選手（唐竹出身）が市役所を訪れ、長尾市長を表敬訪問しました。

内山選手は、「平川市にはドームがあり1年中野球が出来る環境にあった。これが現在の自分につながっている。平川市の子どもに夢を与えられるよう、1日でも早く支配下選手になれるよう頑張りたい」とこれからの活躍を誓いました。